

平成30年8月17日制定

令和3年4月1日改定

登録建築物エネルギー消費性能判定機関の処分の基準

1 趣旨

本基準は、国土交通大臣が建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律（平成27年法律第53号。以下「法」という。）第56条、第57条又は第60条第2項の規定に基づく処分（以下「処分」という。）を行う場合の統一的な基準を定めることにより、国土交通大臣が登録する登録建築物エネルギー消費性能判定機関（以下「機関」という。）の行う判定の業務（法第44条に規定する業務をいう。以下同じ。）に係る不正行為等に厳正に対処し、もって判定の業務の公正かつ適確な実施を確保することを目的とする。

2 用語

本基準における次に掲げる用語の意義は、それぞれ次に定めるとおりとする。

- (1)「取消し」とは、法第60条第2項の規定に基づき、機関の登録を取り消すことをいう。
- (2)「業務停止命令」とは、法第60条第2項の規定に基づき、機関に対し、判定の業務の全部又は一部の停止を命ずることをいう。
- (3)「適合命令」とは、法第56条の規定に基づき、機関に対し、法第46条第1項各号の規定に適合するため必要な措置をとるべきことを命ずることをいう。
- (4)「改善命令」とは、法第57条の規定に基づき、機関に対し、判定の業務を行うべきこと又は判定の業務の方法その他の業務の方法の改善に関し必要な措置をとるべきことを命ずることをいう。
- (5)「文書注意」とは、処分を行うに至らない不正行為等について、文書により必要な指導、助言又は勧告を行うことをいう。

3 処分等の基本方針

機関に対する処分又は文書注意（以下「処分等」という。）は、建築物のエネルギー消費性能の向上を図り、もって国民経済の健全な発展と国民生活の安定向上に寄与するという法の目的を踏まえつつ、機関が行う判定の業務の公正かつ適確な実施を確保するため、本基準に従い、不正行為等の内容・程度、社会的影響、情状等を総合的に勘案して、迅速かつ厳正に行うものとする。

4 処分等手続

機関の処分等の事務は、国土交通大臣が登録した機関については国土交通省住宅局住宅生産課において、地方整備局長、北海道開発局長又は内閣府沖縄総合事務局長が登録した機関については、それぞれ地方整備局、北海道開発局又は内閣府沖縄総合事務局（以下「地方整備局等」という。）の担当課において執り行う。

5 機関の処分等の基準

(1) 一般基準

- イ 機関に対する処分等の内容の決定は、(2)から(4)までに定めるほか、別表に従い行う。
- ロ 処分等は、地域を限定せずに行うことを基本とする。ただし、処分事由（別表に規定する処分事由をいう。以下同じ。）に該当する行為が地域的に限定され当該地域の担当部門のみで処理されたことが明らかな場合には、必要に応じ地域を限り処分等を行うこととする。

(2) 複数の処分事由に該当する場合等の取扱い

- イ 一の行為が二以上の処分事由に該当する場合は、最も重い処分事由に基づき処分等を行うものとする。
- ロ 二以上の処分等すべき行為について併せて処分等を行う場合における取扱いは、次に定めるとおりとする。
 - ①処分事由に該当する行為のいずれかが取消しに該当する場合には、取消しを行う。
 - ②処分等すべき行為のいずれもが取消しに該当しない場合には、それぞれの行為が該当する処分に係る業務停止の期間を合算した期間の業務停止命令を行う。ただし、当該合算した期間が1年を超える場合には、取消しを行う。

(3) 過去に処分を受けている場合の取扱い

処分の日直近1年間に3月以上の業務停止命令を受けている機関が当該業務停止命令に係る処分事由に該当する行為を再び行った場合においては、(1)及び(2)にかかわらず、取消しを行うものとする。

また、処分の日直近3年間に業務停止命令を受けている機関に対し再び業務停止命令を行う場合においては、その期間は、(1)及び(2)に従い決定された業務停止の期間に処分の日直近3年間に業務停止命令を受けた回数に1を加えた数を乗じた期間とする。ただし、当該期間が1年を超える場合には、取消しを行うものとする。

(4) 情状等による処分の加重又は軽減

処分事由に該当する行為が次に定める場合（判定の業務に係るものに限る。）に該当するときは、(1)から(3)までに従い決定された処分の内容について、必要に応じ加重又は軽減をすることができるものとする。なお、加重後の業務停止の期間が1年を超えるときは、取消しを行うとともに、取消しに代えて業務停止命令を行うときは、その期間は、6月以上1年以下の間で定めるものとする。

イ 処分を加重すべき場合

- ① 重大な悪意又は害意に基づく行為である場合
- ② 暴力的行為又は詐欺的行為である場合
- ③ 法違反等の状態が長期にわたる場合
- ④ 常習的に行っている場合
- ⑤ 刑事訴追されるなど社会的影響が大きい場合
- ⑥ その他特に考慮すべき事情がある場合

(注) 処分事由に該当する行為が、(a)①又は②に該当する場合、(b)③から⑥までの2以上に該当する場合又は(c)③から⑥までのいずれかに該当し、かつ、その程度が重大である場合には、処分の内容を3倍に加重することを基本とする。

また、処分事由に該当する行為が(d)③から⑥までのいずれかに該当する場合又は(e)故意によるものである場合（①に該当する場合を除く。）には、処分の内容を2倍に加重することを基本とする。当該行為が(f)故意によるものであって、業務停止命令6月に該当する場合には、取消しを行うことを基本とする。

ロ 処分を軽減できる場合

- ① 違反行為等の内容が軽微であり、情状をくむべき場合
- ② 災害や機関の責めに帰すことのできない事故の発生等行為を行うにつきやむを得ない事情がある場合
- ③ 処分事由に該当する行為につき自主的に申し出てきた場合
- ④ 速やかに法違反等の解消等を自主的に行った場合
- ⑤ その他特に考慮すべき事情がある場合

(注) 処分の内容が業務停止命令の場合であって、処分事由に該当する行為又は当該行為後の対応が、①から⑤までのいずれかに該当する場合には、業務停止の期間を3分の2に、①、②及び⑤のいずれかに該当し特段の事情が認められる場合には、業務停止の期間を3分の1に、①から⑤までの2以上に該当する場合には業務停止の期間を3分の1に、それぞれ軽減することを基本とする。

処分の内容が適合命令又は改善命令の場合であって、速やかに法違反等の状態の解消を自主的に行うなど社会的影響が少なく（④に該当）、かつ、違反行為等の内容が軽微である（①に該当）等、特に情状を考慮すべき事情があると判断できる場合には、文書注意とすることができる。

6 処分等に伴う措置

(1) 登録証の返納

取消し又は業務停止命令を行った場合には、機関に対して速やかに登録証（機関の登録の際に交付される書類をいう。）を返納させることとする。

(2) 取消しを行った場合の業務等の引継ぎ

イ 判定の業務を、その業務区域を所轄する所管行政庁（以下「所轄所管行政庁」という。）に引き継がせるものとする。

ロ 法第55条第1項に規定する帳簿を国土交通大臣に、同条第2項の書類を所轄所管行政庁に引き継がせるものとする。

(3) 処分等の報告

国土交通省住宅局又は地方整備局等において処分等を行った場合には、処分等を受けた機関の名称、住所、登録番号、処分等を行った者、処分等の日、処分等の内容、処分事由等（以下「処分等の概要」という。）を、国土交通省住宅局は当該機関の業務区域を管轄する地方整備局等に、地方整備局等は国土交通省住宅局にそれぞれ報告するものとする。

(4) 処分等後の指導監督

機関に対して処分等を行った場合は、当該処分等に対する違反がないよう監視し、違反があったときは、更に処分等・告発する。

7 処分等の保留

次に定める場合には、必要な間、処分等を保留することができる。

- ① 司法上の捜査がなされ、又は送検、起訴等がなされた場合
- ② 適合判定通知書交付を依頼した建築主その他の消費者の保護のため特に必要な場合
- ③ 処分事由に該当する行為について民事訴訟が係争中であり、処分等の内容の決定に当たっては当該訴訟の結果等を参酌する必要がある場合

8 処分事由に該当する行為があった時から長期間経過している場合の取扱い

処分事由に該当する行為が終了して5年以上経過し、その間、何ら処分事由に該当

する行為を行わず、機関として公正かつ適確に判定の業務を行うなど、法令遵守の状況等が伺えるような場合は、処分等を行わないことができる。ただし、行為の性質上、発覚するのに相当の期間の経過を要するような特別な事情のある場合において、当該行為の発覚から5年以内であるときは、この限りでない。

また、7により処分等の保留をした場合においては、当該保留に係る期間については考慮しないものとする。

別 表

処分根拠条項	関係条項	処分事由	標準的な処分の内容
56	46①一	適合性判定員以外の者が建築物エネルギー消費性能適合性判定（以下「適合性判定」という。）を実施した場合	適合命令
		適合性判定員の必要人数の基準に適合していない場合	
	46①二イ	機関の親法人が建築物関連事業者である場合	
	46①二ロ	機関の役員に占める建築物関連事業者の役員又は職員（過去二年間に当該建築物関連事業者の役員又は職員であった者を含む。）の割合が二分の一を超えている場合	
	46①二ハ	機関の代表権を有する役員が建築物関連事業者の役員又は職員（過去二年間に当該建築物関連事業者の役員又は職員であった者を含む。）である場合	
	46①三 46①四	機関の判定の業務を行う部門に専任の管理者を置いていない場合 債務超過の状態にある場合	
57	52①	判定の業務の実施義務違反	改善命令
	52②	判定の業務の実施に関する基準に適合しない方法により判定の業務を実施した場合 ○ 建築物エネルギー消費性能基準等に従わずに適合性判定を行った場合 ○ 次に掲げる場合において、機関が適合性判定を実施した場合 ① 機関の役員又は職員が、当該機関に対して適合性判定の申請を自ら行った場合 ② 機関の役員又は職員が、当該機関に対する適合性判定の申請に係る建築物について設計、工事監理、施工等を行った場合 ③ その役員又は職員（過去二年間に役員又は職員であった者を含む。）のいずれかが機関の役員又は職員である者が、当該機関に対する適合性判定の申請を自ら若しくは代理人として行った場合又は申請に係る建築物について設計、工事監理、施工等を行った場合 ④ 上記①から③までに掲げる場合に準ずる場合であって、判定の業務の公正な実施に支障を及ぼすおそれがあるものと認められる場合 ○ 機関の判定の業務を行う部門の専任の管理者が、当該機関の役員又は当該部門を管理する上で必要な権限を有する者でない場合 ○ 適合性判定員の資質の向上のための研修の機会が確保されていない場合 ○ 判定の業務の実施に関し支払うこととなる損害賠償のための保険契約を締結していない場合	
60②一	47②	機関の名称、事務所の所在地、役員の氏名、評価を行う部門の専任の管理者の氏名の変更届出義務違反	業務停止命令 1月
	47②	業務区域の増加に係る届出義務違反	業務停止命令 3月
	47②	業務区域の減少に係る届出義務違反	業務停止命令 1月
	47②	適合性判定員選任・解任の届出義務違反	業務停止命令 1月
	49②	機関の地位の承継の届出義務違反	業務停止命令 1月
	54①	財務諸表等の備付け義務違反	業務停止命令 1月
	55	帳簿の備付け・書類の保存義務違反	業務停止命令 1月
59①	判定の業務の休廃止に係る届出義務違反	業務停止命令 1月	
60②二	53①	秘密保持義務違反	業務停止命令 6月
	53①	その他判定業務規程によらず評価の業務を行った場合	業務停止命令 3月
60②三	54②	財務諸表等の閲覧等の請求を理由なく拒んだ場合	業務停止命令 1月
60②四	53③	判定業務規程変更命令に違反	取消し
	56	登録基準への適合命令に違反	
	57	判定の業務に関する改善命令に違反	
60②五	58①	判定の業務に関し必要な報告をせず、又は虚偽の報告をした場合	業務停止命令 1月
		判定の業務の状況等の検査を拒み、妨げ、又は忌避した場合	
		判定の業務の状況等の質問に対して答弁せず、又は虚偽の答弁をした場合	
	60②五	その他判定の業務に関し著しく不適当な行為をした場合	業務停止命令又は取消し
60②本文	判定の業務の停止命令違反	取消し	
60②六	45等	不正な手段により登録を受けた場合	取消し

(注) 「根拠条項」及び「関係条項」欄について、例えば、「46①一」は「法第46条第1項第1号」の意である。

登録建築物エネルギー消費性能判定機関の処分の基準について（補足）

「登録建築物エネルギー消費性能判定機関の処分の基準」別表「関係条項」欄の52②の項に掲げる「判定の業務の実施に関する基準に適合しない方法により判定の業務を実施した場合」のうち「建築物エネルギー消費性能基準等に従わずに適合性判定を行った場合」及び60②五の項に掲げる「判定の業務に関し著しく不適当な行為をした場合」における処分の内容の検討に当たっては、下記によることとする。

記

1 建築物エネルギー消費性能基準等に従わない適合性判定について

建築物エネルギー消費性能基準等に従わずに適合性判定を行った場合とは、次のいずれかに掲げるものとする。

- (1) 判定の業務において、過失により建築物エネルギー消費性能確保計画が建築物エネルギー消費性能基準に適合しないものであるにもかかわらず、適合するものであると判定した場合
- (2) 建築物エネルギー消費性能確保計画に関する書類が不足していた場合や基準への適合を確認する上で必要となる箇所の変漏といった図書の不備等容易にチェックできる事項を見逃した場合

2 著しく不適当な行為について

判定の業務に関し著しく不適当な行為をした場合とは、判定の業務に関し、建築物のエネルギー消費性能の向上を図ることが著しく損なわれたときとする。

3 処分の内容の検討に当たり勘案すべき事項

- (1) 建築物エネルギー消費性能基準等に従わずに適合性判定を行った場合における処分の内容の検討に当たっては、過去に改善命令を受けている場合、その時期、内容等の状況を勘案するものとする。
- (2) 判定の業務に関し著しく不適当な行為をした場合における処分の内容の検討に当たっては、次に掲げる事項を勘案するものとする。
イ 適合性判定員が犯した過失の程度※1、結果の重大さ及びその社会的影響の大きさ※2

並びに過失を犯した適合性判定員の数

※1 建築物エネルギー消費性能確保計画に関する書類が不足していた場合や基準への適合を確認する上で必要となる箇所の欠落とといった図書の不備等容易にチェックできる事項を見過ごしていた場合、誤った教示をした場合等は、当該判定の業務において重大な過失があったものとして取り扱う。

※2 次に定める事項のいずれかに該当するときは、結果が重大で社会的影響が大きいものとして取り扱う。

① 建築物のエネルギー消費性能がエネルギー消費性能基準に適合せず、当該基準に照らして著しく不十分であることにより、建築主等の財産を侵害したとき
又はそのおそれが高いとき

② 建築物のエネルギー消費性能に対する疑いが生ずること等により、建築物エネルギー消費性能適合性判定に対する国民の信頼が著しく損なわれたとき

ロ 処分事由に該当する行為が行われていた機関の事務所の数

ハ 立入検査、報告等において明らかとなった事項

ニ その他処分の内容を検討するに当たり考慮すべき事項